

第1回館林市立学校適正規模・適正配置審議会 議事録

日時	令和7年6月4日(水) 午後3時00分 ~ 午後4時30分		
場所	館林市役所 504会議室		
出席者	委員	土屋 修 内藤 敏男 大澤 好則 小山 真智子 浅沼 三恵子 青木 寿恵 飯塚 健	欠席委員 井戸 健二 小暮 真之
		教育長 中村 美江子	
	事務局	教育次長 戸叶 俊文 教育総務課長 木村 和好 学校教育課長 平井 智久 総括係長 岩瀬 美花里 指導主事 荻野 和明 主任 横山 瑠璃子	

1 開会

2 委嘱状交付

- ・中村教育長から委員7名へ委嘱状が渡される。

3 教育長挨拶

4 自己紹介

- ・委員と事務局の自己紹介。

5 会長及び副会長選出

- ・委員の互選により、土屋委員を会長に選出。
- ・委員から副会長の推薦が出ず、事務局より浅沼委員を副会長に推薦。承認される。

6 諮問

- ・委員9名の過半数となる7名の出席により、審議会が成立することを確認。
- ・中村教育長から土屋会長へ諮問書が渡される。

7 議題

発言者	審議内容
事務局	それでは、この後の進行は、規則第8条に基づき、土屋会長に議長として進行をお願いいたします。土屋会長、よろしくをお願いいたします。
会長	まず、議事に入る前に、館林市立学校適正規模・適正配置審議会傍聴等に関する規程について、事務局より説明をお願いいたします。 (事務局より説明) ただいまの内容について、何かご質問等はございませんか。 (意見等なし) 特にないようですので、こちらの内容でご了承いただければと思います。 それでは、次第7の議事に入ります。 初めに、学校適正規模・適正配置審議会が必要となった背景、国や県の動向、

	<p>それから館林市の状況等を説明いただいて、まず私たちが現状をしっかりと把握することが大切だと思います。審議会の概要、審議会の進め方について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、事務局より当審議会の概要につきまして、ご説明いたします。</p> <p>少子化が急速に進展した結果、国でいくと2008年をピークに総人口が減少に転じています。これに伴って、館林市の小学校の児童数、中学校の生徒数、こちらも徐々に減少しております。館林市教育委員会では、児童生徒のより良い教育環境を確保し、質の高い教育を維持継続するため、計画的に対策を検討する必要があると考えまして、館林市立学校適正規模・適正配置の基本方針の策定を検討しております。この学校適正規模・適正配置の基本方針の策定にあたって、どの程度の学校の規模が必要になるか、この規模を実現するためにはどのような方法があるのか、また、その際の留意点は何かなど、この審議会の中でご意見をいただき、取りまとめて、教育委員会に答申をしていただきたいというものでございます。</p> <p>この審議会は9名の委員にお願いをしております。学識経験者や校長先生、園長先生という教育の専門知識を有する方だけではなく、小中学校児童生徒の保護者の方や、地域と学校との関わりの窓口となる機会が多い区長さん、今後小学校に入学する、こども園の保護者の方など、それぞれの立場からご意見をいただきたいと考えております。第1回目の本日は、昨年度実施しました本市の教育環境に関するアンケート調査報告書、学校適正化の背景、国が示す適正規模や適正配置の考え方、本市の現状と将来の予想について説明し、次回からご審議いただきたいと考えております。</p>
会長	<p>先ほど教育長から諮問をいただきました。少子化による児童生徒の、幼児もそうですが、減少が予想される中で、児童生徒のより良い教育環境を確保し、質の高い教育を維持継続するためにはどんな学校規模・学校配置が望ましいのか。そういったことを諮問するということでした。その具体的なことにつきまして、次回以降、皆様と審議していつ、最終的には答申という形で教育委員会にお返しするということでもあります。</p> <p>そのためにも、館林市のこれまでの取組、適正化に向けたその背景、国が示す適正規模、適正配置の考え方、この辺りが難しいところだと思いますが、そして、館林市の現状、将来の予想を含めまして、具体的な状況等について資料を基に事務局よりご説明をいただきたいと思います。</p> <p>議題の(1)「館林市教育環境に関するアンケート調査報告書について」、事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	(館林市教育環境に関するアンケート調査報告書(概要版)の資料説明)
会長	ただいまの内容について、何かご質問等はございませんか。
委員	学校に望むことについて、教職員の「地域コミュニティの拠点」の回答数が55.6%あったということですが、市全体がコミュニティ・スクールを運営している中での一つの成果と読み取ることができると思っています。
会長	ありがとうございました。ほかにご覧いませんか。
委員	<p>私は四小愛がすごく強いのですが、正直、この審議会のお話をいただいた時にどうしたら四小を潰さないでいられるかということをしごく思いました。以前、別の会議に参加した際にも「四小をぜひ残してください」とお話しした記憶があります。</p> <p>今回の資料を私なりに見て、現在1年間に生まれてくる子どもの数が約300人という話を聞き、1学級30人とすると10クラスほどで十分なんです。10クラスだと小学校で4校、5校で十分になる状態ですと、四小を残してほしいとは言いにくい、そのようなことを言っている場合ではないんだなと思いました。四小はとても良い学校で、隣にある東こども園にも私の子どもが通っていますが、こちらもとても良い園で、思い入れはすごく強いけれどもそうは言っていられないなと強く感じました。</p> <p>様々な資料を見て、統廃合していくことは仕方ないのだろうと私自身も思っていますし、統廃合していくにもどのようにしていけば、というのは皆さんのいろいろなお話を聞きながら進めていきたいと感じています。</p>
会長	ありがとうございました。ほかにご覧いませんか。
委員	<p>少し話が異なりますが、この審議員はどのように選んだのか教えていただきたいです。</p> <p>また、私は市内でも西側の郊外に住んでいますが、いずれ将来的に統合となると、どちらかというと旧市街というのでしょうか、こちらの方がこの会議で優先的な物事の運び方になっているような気がしています。郊外の方の考え等もあると思うので、もっと広く聞き入れていただきたいと思います。</p>

事務局	<p>審議会委員の皆様につきましては、各団体、学校長は校長会へ、区長は区長会へ、保護者は市P連へ推薦を依頼しております。また、こども園につきましても園長及びその保護者について、全ての幼稚園やこども園を含めて推薦をお願いして、本日お集まりいただいた次第です。</p> <p>もう1点、もっと大勢の声を取り入れてほしいというお話ですが、そういったご意見もあると思います。今回は総論、館林市全体を見て適正な規模・適正な配置についてお考えいただくこととなります。先ほどお話がありましたように、四小が若干クローズアップされがちではありますが、館林市全体でこういった状況になったら考えなくてはならない、といった基準を作っていただくのが今回の審議会の目的です。そういった点について答申をいただければと思います。</p>
会長	<p>ほかにございませんか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>次回以降もご発言の機会はたくさんあると思いますので、気になる点がありましたらご意見等いただければと思います。</p> <p>それでは、(2)「館林市立学校適正規模・適正配置に関する基本的な考え方について」、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料1～8を順に説明)</p>
会長	<p>ただいまの内容について、何かご質問等はございませんか。</p>
委員	<p>資料7のIVとVについて、令和12年度の小学校推計を見ると標準規模校の最小数12学級に3校、15学級に1校となっていますが、このまま放っておくと三小、八小、十小も小規模校となって標準規模校が一小だけになってしまうんだなと知って驚きました。あわせて、中学校もそういう視点で見ますと令和12年度の時点で標準規模校の最小数12学級に一中があつて、もし一中が小規模校になれば館林市には標準規模校がなくなってしまうという衝撃的なデータで、この会の重要さが改めてわかる資料でした。</p>
会長	<p>委員がおっしゃるとおり、そのためにこの審議会があるということですので。貴重なご感想ありがとうございました。</p>

委員	資料6で令和7年度の生徒数が1,820人とありますが、館林市立の中学校に通っている人数ですか。市外の私立等に進学している子は含まれていないということでしょうか。
事務局	私立は含まれておりません。館林市立中学校の人数となります。
委員	住民としてはもう少し人数がいるということですね。わかりました。
会長	先ほど「そうも言ってもらえない」といったご意見もありましたが、その数字がまさに示されているような資料でした。ほかにご覧いませんか。 (意見等なし) 次に、(3)「その他」について事務局より説明をお願いします。
事務局	(第2回館林市立学校適正規模・適正配置審議会日程について説明)
会長	お話がありましたように、第2回は7月23日(水)午前10時30分からとなります。 最後に、全体を通してご意見・ご質問等があれば伺いたいと思います。
委員	丁寧なアンケート調査、そしてわかりやすい資料を作成いただきました。また、これから考えていくにあたって、法令や館林市の現状など、様々な視点から説明していただきました。個人的に美園小や十小は大規模校のようなイメージがありましたが、実際は標準規模校ということで自分の認識との違いを感じることができました。特に、資料7の先を見通したこの学級数は説得力のある数字だと思います。計画的にというところで今この会が立ち上がり、館林市の将来について考えていく良い機会だと思っています。また資料を読み込んで次回出席させていただきます。
会長	委員からご意見もありましたが、全体的な視点でということをお忘れではないと思います。
委員	感想ですが、私は元々七小地区の生まれで当時からはかと比べると人数が少なかったです。それでも第二次ベビーブーム世代なので若干多かったです。今子どもたちがいる学校はもっと少ないと感じていました。これから先、

	<p>少子化が更に進むと勉強だけではなく楽しみにしていた運動会や合唱コンクールなどの学校行事がどんどんこじんまりとしていくことが個人的に悲しかったので、今このように開催していただいていることはとても意義があるのではないかなと感じました。今後良い意見を出していければと思っています。</p>
委員	<p>私も四小出身です。四小の皆さんもよく知っていて、たてわり清掃など経験してとても良かった思い出があります。資料5の小規模校のメリット・デメリットを読ませていただきましたが、デメリットよりもメリットの方があると個人的には思っています。メリットがある中で、ただ短絡的に人数が減ったから学校を減らしていこうという、そういう形だけではない方法を模索していただきたいと思います。次回からそのような話もできればと思っています。</p>
委員	<p>話が変わりますが、私が子どもの頃は1学年で200人、1クラスは50人くらいで、その頃はこのような感覚は一つも持っていませんでした。現実をこういうグラフで表されると年齢的に理解に苦しむんですね。パトロールをしていて下校する子どもたちを見ていると、非常に少ないなと肌身に感じるがあります。ですから、我々も現状に変えて理解しながら頑張らなくてはならないなと思いました。</p>
会長	<p>確かに、目で見えてわかりやすいグラフなどがあると良いですね。</p>
委員	<p>無理だと思いますが、次回までの資料として。別の会議に出た時にも思ったことですが、我々が意見を言っても、結局市の方ではこうしたいというものが本当はあって、意見は聞くけど「はい、では終わりました」と終わったというイメージが私の中にあります。次回までに用意していただきたいというのは、教育委員会が今の段階で本当はこうしたいという考えられてるはずだと私は思っています。今の人口がこうだから、学級数は大体こうなっていくのではないかなと考えているものがあると思うので、そういったスケジュールなり案なりがあるなら出していただきたいです。こういうふうを考えているんだなと知った上で、でも我々が「こうじゃないのか」と意見を言うような、そういうやりとりがあると良いなと。市の方がいろいろな情報を持っているので、提示できるものを出してもらった方が良いかなと思いました。</p>
事務局	<p>現時点での考えはゼロベースです。ただ、アンケート結果や国の基準を照らし合わせるとぼんやりと皆様もわかっておられると思います。そのぼんやり</p>

	<p>とした基準についてご審議いただくというのがこの場になってきます。今の時点では全くありませんが、少し草案的なものは次回以降、あと1か月ほどなので小出しになるかもしれませんが出していきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかにご覧いませんか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>以上、予定しておりました議題は終了しましたので、議長の座を降りさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>

8 その他

・なし

9 閉会